

C-68 農村婦人作業衣の変遷 オ10報 — 雨着について —
県立秋田農業短大 日浅治枝子

目的 雨着の目的は、農民が雨中的の農作業時に、雨あるいは泥土を防ぐために着用するが、農作業の時期によつては防寒着を兼ねることもある。かつて農民の雨着は「みの」とよばれる植物製のマント状のものが多く、これは古くより全国的な分布が見られた。しかし現在、みのを着用する農民は皆無に近く、大半は洋服式雨着に著化した。みのの衰退と新しい雨着への変遷ならびにその要因を明らかにすることによつて、今後益々進展する農業技術に適合する雨着の開発を考へたい。

方法 昭和27年以降、全国各地の農山漁村において、農村婦人作業衣変遷の実態調査を行なつてきた。雨着の調査もそれに付随したもので、主として農村婦人を対象に与えとりならびに、実物調査を行なつたものである。

結果 現在、農村各地域において着用される雨着類は、その大半が化学繊維による洋服式上下二部式の、通称ビニールカツパとよぶものである。この雨着への変遷過程は、みの—じざ—ゴムカツパ—ビニールカツパの順序による場合が多い。ビニールカツパへの移行年代は、昭和25年頃から40年前後がもっとも多い。みのの衰退については、いろいろの理由があげられるが、そのオノは戦後の急速な農業技術の著化に相応しない形態と機能のためと考へられる。一方、ビニールカツパの増大理由のひとつとして、昭和30年以降にはじまる新しい農薬使用との関連を無視できない。つまりビニールカツパは、本来の目的である防雨、防寒に加えて、防除用として身体保護の役目もまた兼ねることが注目される。